

「北九州市立大学同窓会 長期構想」

- 2007（H19）年8月  
長期構想の最終答申《山下建治会長 ← 千綾奉文・長期構想検討委員会委員長（大支部長）》
- 2007（H19）年10月27日  
平成19年度第2回評議会で承認
- 【北友会会報97号】《2007年（H19）年12月15日：発行》  
北友会会報96号で「中間報告」をお知らせした「北九州市立大学同窓会 長期構想」が、各支部から頂いたご意見なども参考にして最終答申されました。会長は、この答申を最大限尊重すると表明され、その後これを役員会および評議会に諮り、いずれの段階でも承認されました。この結果、正式に私たちの同窓会の今後の活動指針となりました。

=====

■北九州市立大学同窓会 長期構想■

★答申書の表紙に記したスローガン →⇒「大学と共に！ 多世代で和む同窓会！」

1 前 文（基本的な認識）

- 私たちの母校は・・・
  - ・2001年「北九州市立大学」と改称し  
「ひびきの」に国際環境工学部が設置され
  - ・2005年には「公立大学法人」となり  
全国に注目される「教学改革」が進行中です
  - ・現役留学生は200人を超えるなど  
国際化も勢いよく進んでいます
- 同窓会を取り巻く環境は・・・
  - ・母校創立から60年を経過し
  - ・会員数は46,000人を超え  
世代間の距離が目立つようになり
  - ・個人情報保護によって  
会員情報の共有も難しくなるなど  
活動環境が大きく変化しています
- 本部や各支部活動の最前線においても・・・
  - ・「北方」と「ひびきの」卒業生の一体感が保ち難い
  - ・若い会員や女性会員の活動参加が少ない
  - ・支部長の役割と権限がはっきりしない
  - ・同窓会会費の未納者は減少せず  
新入学時の納入が漸減傾向といった  
問題点が顕在化してきました
- このような問題点には対処療法ではなく  
腰を据え、将来を見据えた取り組みが必要です

## 2 三つの合言葉と五つの挑戦項目

そこで私たちは・・・

「楽しい」「役立つ」「未来志向」を合言葉に

次の五つに軸足を置いて、チャレンジ（行動）していきます

### 【ファイブ・チャレンジ】

- I 継続的発展
- II 多世代の会員の積極的参画
- III 透明で開かれた活動
- IV 環境の変化に適応した運営
- V 安定した財政基盤整備

## 3 具体的な目標

【凡例 = 取り組みのスピード区分 ・ ・ A、B、C】

(A) 平成19年度秋の評議会を目途に、急いで取り組むべきもの

(B) 平成20年度秋の評議会を目途に、じっくり検討すべきもの

(C) 継続的、長期的に腰を据えて取り組むべきもの

### ● チャレンジ・I →⇒ 継続的発展に向けて・・・

- ① 本部・支部活動において、地域との連携を密にします ・ ・ ・ ・ ・ (C)  
\* 「同窓会ここにあり！」を大いに発信します
- ② 支部長の役割と権限を明確にします ・ ・ ・ ・ ・ (A)  
\* 会則等検討委員会に「支部長は評議員を兼ね、支部長に責任と権限を付与する」規定の改正・整備を諮問します  
\* 会則等検討委員会の答申を踏まえた改正案を作り、評議会で改正内容を表決します
- ③ 本部・支部の役員に若い会員、女性会員を積極的に登用します ・ ・ ・ ・ ・ (B)
- ④ 各地域の就職支援活動をさらに拡充していきます ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ⑤ 同期会、サークル・ゼミOB会などの組織との有機的な連携を図ります ・ ・ (B)
- ⑥ 同窓会の法人化に向けた研究をします ・ ・ ・ ・ ・ (C)

### ● チャレンジ・II →⇒ 多世代会員の積極的参画に向けて・・・

- ① 北友会会報をバラエティー豊かな楽しいものにします ・ ・ ・ ・ ・ (A)  
\* 地域の特産品宅配や同窓生格安交流ツアーなど、魅力ある付加価値を研究します
- ② 学生会員やサークルに協力を求め、魅力あるホームページにします ・ ・ ・ ・ (B)
- ③ 学生会員の中から本部役員を登用します ・ ・ ・ ・ ・ (B)
- ④ 支部では新卒者を招待し、「歓迎会」を開きます ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ⑤ 各界で活躍中の会員をリストアップし、「講演会」などの各種イベントへ協力いただきます ・ ・ ・ ・ ・ (B)

### ● チャレンジ・III →⇒ 透明で開かれた活動に向けて・・・

- ① 北友会会報やホームページで、活動報告や会計報告を分かりやすくお知らせします ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ② ホームページの「会員の声」欄を充実させ、広く提案や意見を求めます ・ ・ (A)
- ③ 「支部活動運営ノウハウ(Q&A方式)」や「各支部での工夫例」を作成します ・ ・ ・ ・ ・ (B)

- チャレンジ・Ⅳ →⇒ 環境の変化に適応した運営に向けて・・・
  - ① 本部運営組織の整備を図ります・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
  - ② 校歌が「ひびきの」キャンパスにも配慮したものになるよう大学当局に働きかけます・・・・・・・・・・・・・・・・ (C)
  - ③ ひびきのキャンパスに同窓会事務局分室の設置を検討します・・・・・・・・ (C)
  - ④ 中心市街地に同窓会のサテライト事務局の設置を検討します・・・・・・・・ (C)
  - ⑤ 後援会と協働し、学生会員および留学生への支援を拡充します・・・・・・・・ (B)

- チャレンジ・Ⅴ →⇒ 安定した財政基盤整備に向けて・・・
  - ① 入学時に同窓会の会費未納者（学生会員）の保護者あてに簡易版の北友会会報をお届けし、活動に理解をいただきます・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
  - ② 同窓会の会費未納者には北友会会報の簡易版会報のみを送付し、完納者と区別した対応を行ないます・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
  - ③ 財産の一部について安全で有効な運用方法を研究します・・・・・・・・ (C)
  - ④ 北友会会報およびホームページへの広告を募集します・・・・・・・・ (B)
  - ⑤ 北友会会報やホームページに寄付金・篤志案内を行います・・・・・・・・ (B)
  - ⑥ 既卒者の同窓会会費完納時の記念品寄贈を見直します・・・・・・・・ (A)

#### 4 むすび

挑戦項目ごとに  
 取り組みのスピードで三つに区分して掲げた3～6項目の  
 具体的な行動目標は  
 今後、具体的な行動計画（アクションプラン）で  
 さらに分かりやすく明確にし  
 同窓のみんなで同じ方向をめざし  
 「楽しく」「役に立つ」「未来志向」の同窓会にしていきます

以 上

## 北九州市立大学同窓会 第二次長期構想

(注) 以下の記述の中では現・長期構想に代わる新たな長期構想を「第二次長期構想」と記すこととする。

### 1 前文

私たちの母校は・・・

- ・2001年に「北九州市立大学」と改称し  
2005年には「公立大学法人」となり  
全国に注目される「教学改革」が進行中です
- ・現役留学生は250人規模に達するなど  
国際化も勢いよく進んでいます

同窓会を取り巻く環境は・・・

- ・母校創立からすでに65年  
「ひびきの」に国際環境工学部が設置され12年が経過し  
会員数は54,000人を超え  
世代間の距離が目立つようになり
- ・個人情報の保護によって  
会員情報の共有も難しくなるなど  
活動環境が大きく変化しています

本部や各支部活動の最前線においても・・・

- ・若い会員や女性会員の活動参加が少ない
- ・同窓会費の未納者は減少せず  
新入学時の納入が逡減傾向といった  
問題点が顕在化してきました

このような問題点には対症療法ではなく  
将来を見据えた取り組みが必要です。

### 2 三つの合言葉と六つの挑戦項目

そこで私たちは・・・

- 「楽しい」「役に立つ」「未来志向」を合言葉に  
次の六つに軸足を置いてチャレンジ（行動）していきます
- チャレンジⅠ 「将来の確かな発展に向けて」
  - チャレンジⅡ 「誰にも開かれ身近で親しまれる活動」
  - チャレンジⅢ 「多世代会員の積極的参画」
  - チャレンジⅣ 「人的ネットワークを活かした活動」
  - チャレンジⅤ 「同窓会を取り巻く環境の変化に適応した運営」
  - チャレンジⅥ 「安定した財政基盤整備」

## 4 長期構想を実施するにあたって

### (1) 長期構想の計画期間

- 長期構想そのものが計画である以上、一定の区切り（期間）を設けることとする。これにより長期構想で掲げた目標がより明確になり、計画の進捗状況が把握しやすくなる。
- 始期は2014年（平成26年）4月からとし、2021年に同窓会が発足70周年を迎えることも考慮し、2019年までの6年間をこの長期構想の期間とする。

### (2) 長期構想の共有化とその実現のための方策

- 同窓会活動の指針としての長期構想は、会員間の共有化がなされてこそ実現する。したがってこの構想を分かりやすく解説した冊子を作成し会員に配布し、または長期構想の進捗情報をタイムリーに提供するなどもひとつの手段であろう。

### (3) 長期構想のPDS（Plan=計画 Do=実行 See=評価）

- 本部役員会は前年度の長期構想の実施状況を検証し、次年度の実行計画を定める必要がある。本部役員会で方向づけられた実行計画は評議会において議決承認を受け、当該年度の「運営・活動方針」および「事業計画」に反映させることを要望する。

3 挑戦項目・具体的行動計画

挑戦項目		挑戦項目を実現するための具体的行動計画		
区分	内容	項番	区分	内容
挑戦Ⅰ	<b>将来の確かな発展に向けて</b> ●同窓会が掲げた活動指針に沿ってこれからも活発な同窓会活動を継続していくために、先々想定される課題への対応や将来を先取りした体制づくりなどに努める。	1	修正	地域貢献などを通じ本・支部活動の地域との連携を密にする。 *会員の地域での社会貢献活動を調べ、同窓会活動の趣旨に合致するものについて共に輪を広げる。 *大学側の活動に同窓会が加わる。
		2	新規	同窓会活動の更なる発展のため組織・制度の見直しを行う。
		3	新規	安定的な同窓会財産（ハード）の維持・確保に努める。
		4	新規	将来の安定的な財源確保に努める。
挑戦Ⅱ	<b>誰にも開かれ身近で親しまれる活動</b> ●同窓会会員の誰もが何時でも気軽に参加したくなるような魅力ある同窓会活動を展開していく。	1	新規	支部総会をはじめ種々の支部活動に参画しやすい環境づくりを本部との協働により積極的に取り組む。 *年長会員も生き生きと活動できる環境づくりを進める。 *学生会員が関心を示すテーマで同窓会主催の講演会やシンポジウムを開催するなどし、同窓会を身近に感じてもらう。
		2	新規	評議会後の「支部活動意見交換会」で出された意見など、支部活動に役立つ様々な情報を広く支部会員で共有する。
挑戦Ⅲ	<b>多世代会員の積極的参画</b> ●現・同窓会活動において最重要課題と位置付けその対応に苦慮しているのが、若年会員や女性会員の同窓会離れとこれへの対応である。依然として歯止めがかかっていないのが実情で、これまで以上に本・支部が一体となってきめ細かな対策を継続的に実施していくとともに思い切った打開策も必要とされる。	1	修正	広報活動の充実を図る。 *会報とH・Pのそれぞれの特徴を活かした活動を展開する。 *新入生歓迎号や卒業祝賀号の発行などで学生会員へより一層同窓会活動をアピールし、同窓会を身近な存在と受け止めてもらう。 *H・Pとの棲み分けを図りつつ紙面の充実を図る。 *活動結果の報告に加え、イベントなど今後の案内記事も掲載する。
		2	修正	学生会員へのアプローチや支援のあり方について検討する。 *学生会員が関心を持つH・Pを作成する。 *同窓会のH・Pに学生やサークルからの情報が提供できる手段を講じる。
		3	修正	現・学生側（学友会など）の組織の中に同窓会担当の設置を働きかけるなど、学生との情報交換を密にする。
		4	修正	支部では新卒者を中心に新会員の勧誘に取り組むほか、支部活動に参加しやすい工夫をするなどして、新会員を増やしていく。
		5	新規	若年会員や女性会員の拡大を図る。 *本・支部役員へ若年・女性会員を積極的に登用する。
		6	新規	学生に対する支援・フォローを充実する。
		7	継続	「支部活動運営ノウハウ（Q&A方式）」や「各支部での工夫例」を作成する。
挑戦Ⅳ	<b>人的ネットワークを活かした活動</b> ●5万人を超える同窓生が全国各地で様々な分野で活躍している。この人的資源を活用した同窓会活動こそが“同窓会ならではの”であり“同窓会の強み”である。特に現役学生に対しては就職に関わる多面的な支援事業が期待できる。	1	修正	本部及び各支部での就職支援活動を拡充する。 *大学と共同して同窓会館1階スペースを活用し、同窓会主催の就職説明会や相談会を開くなど就職支援に取り組む。 *各地域での就職支援活動の充実を図る。
		2	修正	同期会、サークル・ゼミOB会等組織との有機的連携を図る。
		3	継続	各界で活躍中の会員をリストアップし、「講演会」等イベントへの協力を依頼するなど、同窓会活動への支援要請を行う。
挑戦Ⅴ	<b>同窓会を取り巻く環境の変化に適応した運営</b> ●同窓会活動を円滑に運営していくため、大学はじめ同窓会と関わりを持つ相手（団体など）とも常に良好な関係を維持していく。特に大学とは可能な限り情報を共有しつつ、同窓会として大学発展のため効果的な役割りを果たして行く。	1	継続	後援会と協働し、学生会員への支援体制を強化する。
		2	新規	大学や学生（団体）との連携強化を図る。
		3	新規	大学、同窓会、後援会の三者会談などの連携を密にする。
挑戦Ⅵ	<b>安定した財政基盤整備</b> ●一定レベルの活動を維持していくには安定的な収入の確保が欠かせないし、支出面では無駄のない効率的な予算配分と執行が求められる。また、先々の収支環境の変化を見通した資金確保にも努めねばならない。	1	新規	会費未納学生に対し効果的な納入促進策を検討する。
		2	継続	安全有利な財産運用に努める。
		3	新規	既卒会費未納者対策として、引き続き3年間の強化期間を設け会費完納を働きかける。
		4	新規	財産の効率的な運用を図る。

継続： 4  
 新規： 12  
 修正： 7